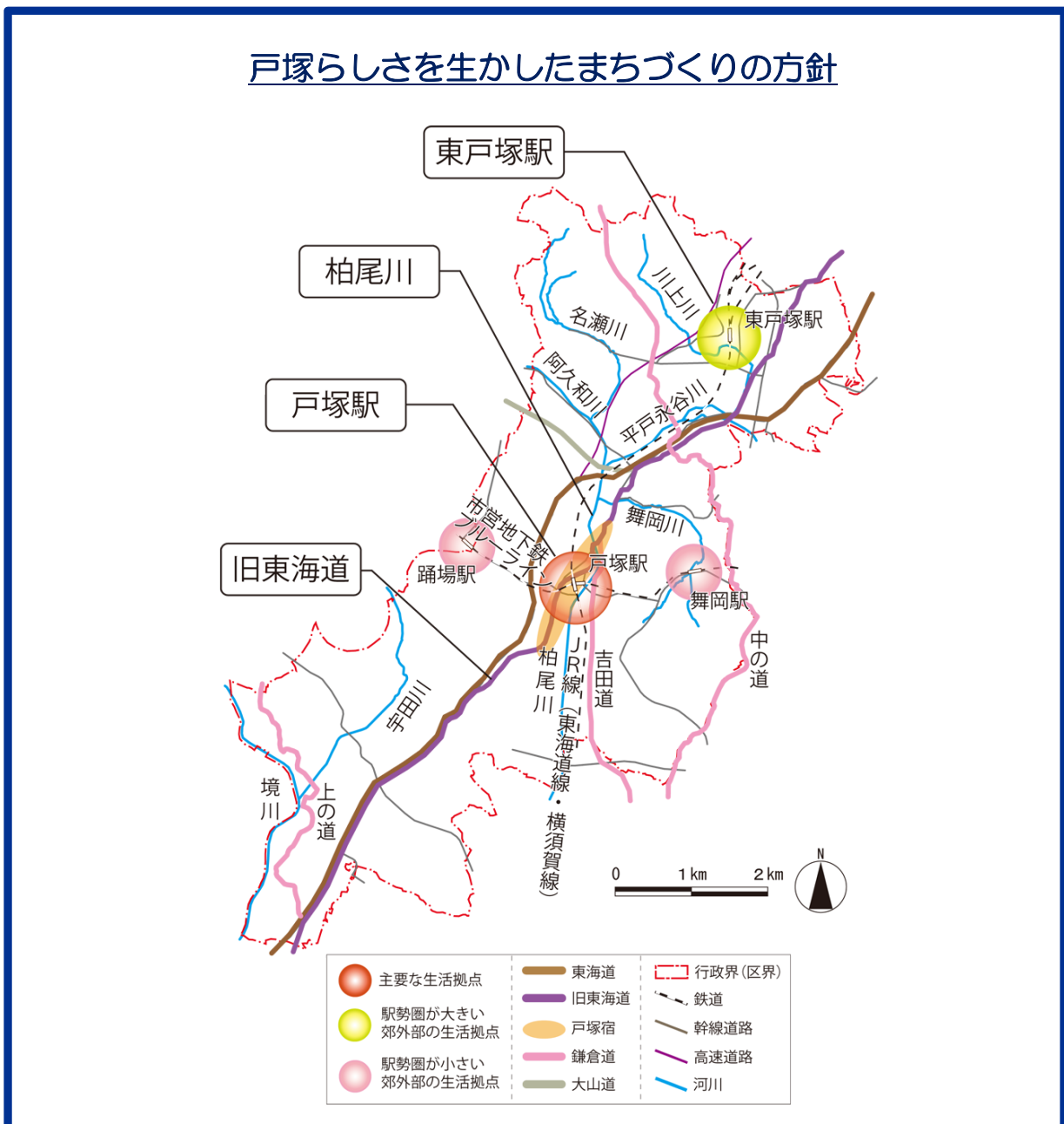


V 戸塚らしさを生かしたまちづくりの方針

戸塚駅周辺は、再開発事業や区画整理事業などによりまちづくりが進められてきました。また、東戸塚駅周辺は、民間事業者によるまちづくりが進められてきました。今後は、都市基盤を修復、更新し、まちの活力を維持・創出していくことが必要となっています。更に、戸塚の特徴である川と緑、旧東海道などの地域資源を十分に生かしながら、まちの魅力を高めていくことも求められています。

そこで、第IV章の「4. 都市の魅力と活力の方針」の中から、戸塚区における魅力と活力の維持・創出の柱となる駅周辺や河川など、戸塚らしさを生かしたまちづくりについての方針を掲げます。



1. 拠点駅周辺のまちづくり

(1) 戸塚駅周辺

業務・商業・文化など多様な機能が集積する主要な生活拠点

<現状と課題>

- 西口第1地区の市街地再開発事業が完了し、区役所や区民文化センターなど公共公益施設や文化施設が整備されました。
- 戸塚駅前地区中央土地区画整理事業により、住宅地、商業地を中心としたまちづくりや、柏尾戸塚線が整備されました。
- 戸塚駅西口第3地区においては、地区計画などによるまちづくりが進められています。
- 駅近くに集合住宅が急増しており、学校の教室不足の問題が発生しています。また、子育て関連施設や公園が必要とされています。
- 東口バスターミナルは、バス交通の混雑が課題になっています。
- 駅周辺で、一部バリアフリー化されていない場所があり、課題になっています。
- 駅周辺では、一般車両の駐停車による混雑が慢性化しています。

<目標像>

- ・多様な機能が集積し、にぎわいのあるまち
- ・交通の拠点となる利用しやすい駅
- ・誰もが歩きやすいバリアフリーのまち
- ・東西が一体となり発展するまち

<主な取組>

(1) 駅周辺にふさわしいまちづくり

- ・鉄道駅を中心としたコンパクトな市街地を基本とし、業務・商業・文化などの多様な機能を維持し、更なる集積を目指します。
- ・東口暫定交通広場の活用も含めた駅前広場機能の再配置を検討します。
- ・駅周辺のバリアフリー化を進めます。

(2) 道路交通の円滑化

- ・駅周辺における交通の円滑化を図ります。
- ・バス路線再編成の検討を行い、バス交通の混雑緩和を図ります。
- ・放置自転車対策のため、自転車駐車場の整備を進めます。
- ・市道矢部第129・281号線（第2バスセンター～蔵坪交差点～富士橋）、県道大船停車場矢部、柏尾戸塚線（横浜伊勢原線～戸塚警察署下交差点付近）の改良、桂町戸塚遠藤線（下永谷大船線～八坂神社前交差点）の新設といった駅周辺の道路整備を推進します。

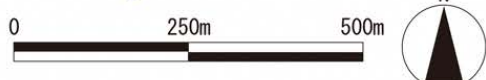
(3) 魅力的なまちづくり

- ・東西一体化の推進に向け、柏尾川の散策路の連続性確保に向けた検討やイベント等の実施を進めていきます。
- ・地区計画や地域まちづくりルールが定められた地区において、引き続きルールに沿ったまちづくりを進めていきます。

(4) 土地利用の誘導

- ・柏尾川沿いの工業集積地域においては、生産・研究開発機能を維持していきます。
- ・大規模な集合住宅の建設時には、小学校の教室不足など様々な課題が発生することが考えられるため、地域の状況を考慮した計画を誘導します。

戸塚駅周辺まちづくり方針図



道路	東海道の街並みを形成する地区	地区計画	低層住宅地区 (1)
鉄道	柏尾川沿いの景観形成	東海道戸塚宿まちづくりルール	中高層住宅地区
アクセス動線強化	駅前広場	明るい街コミュニティルール	業務・商業地区
交差点	バスターミナル	市街化調整区域	沿道地区
	交通広場	旧舞岡リサーチパーク第2期地区	工業地区

<現状と課題>

- 民間主導の区画整理事業によりまちづくりが進められ、都市基盤整備や商業・業務機能の集約が図られてきました。
- 鉄道や道路など広域的な交通網が形成された利便性の高い地域になっています。
- 駅に近いエリアが、緑の10大拠点の範囲になっており、周辺に山林や畑が残されています。
- 開業当時の昭和55年には約15,300人だった乗降客数が、平成28年には約116,800人となり、約7.6倍に増加しています。
- 駅利用者の増加に伴う駅構内や駅ホームの混雑が課題になっています。
- 30を超える路線のバスが発着しており、港南区・保土ケ谷区・旭区・泉区からもアクセスできるルートがあります。
- 駅周辺道路では、自家用車やバスなどの交通集中による混雑がみられます。

<目標像>

- ・業務・商業・文化・研究開発等の機能が集積したまち
- ・駅周辺の交通利便性が高いまち
- ・快適な都市空間が充実したまち
- ・東西が一体となり発展するまち

<主な取組>**(1) 駅周辺にふさわしいまちづくり**

- ・鉄道駅を中心としたコンパクトな市街地を基本とし、鉄道や道路などの広域的な交通利便性を生かした業務、商業、文化、研究開発等の機能の維持や集積を図ります。
- ・駅周辺の一体的なバリアフリー化など歩行空間の充実を図ります。

(2) 快適な交通体系づくり

- ・横浜環状鉄道の整備については、事業性を高めるための検討を進めます。
- ・駅東西の連絡動線の強化を目指します。
- ・鉄道事業者と連携し、駅ホームの安全対策の推進や駅舎改良等の混雑緩和対策について検討します。
- ・バス路線の維持・充実を図るための検討を行っていきます。
- ・桜木東戸塚線、権太坂和泉線の整備を推進します。

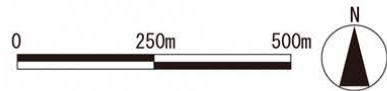
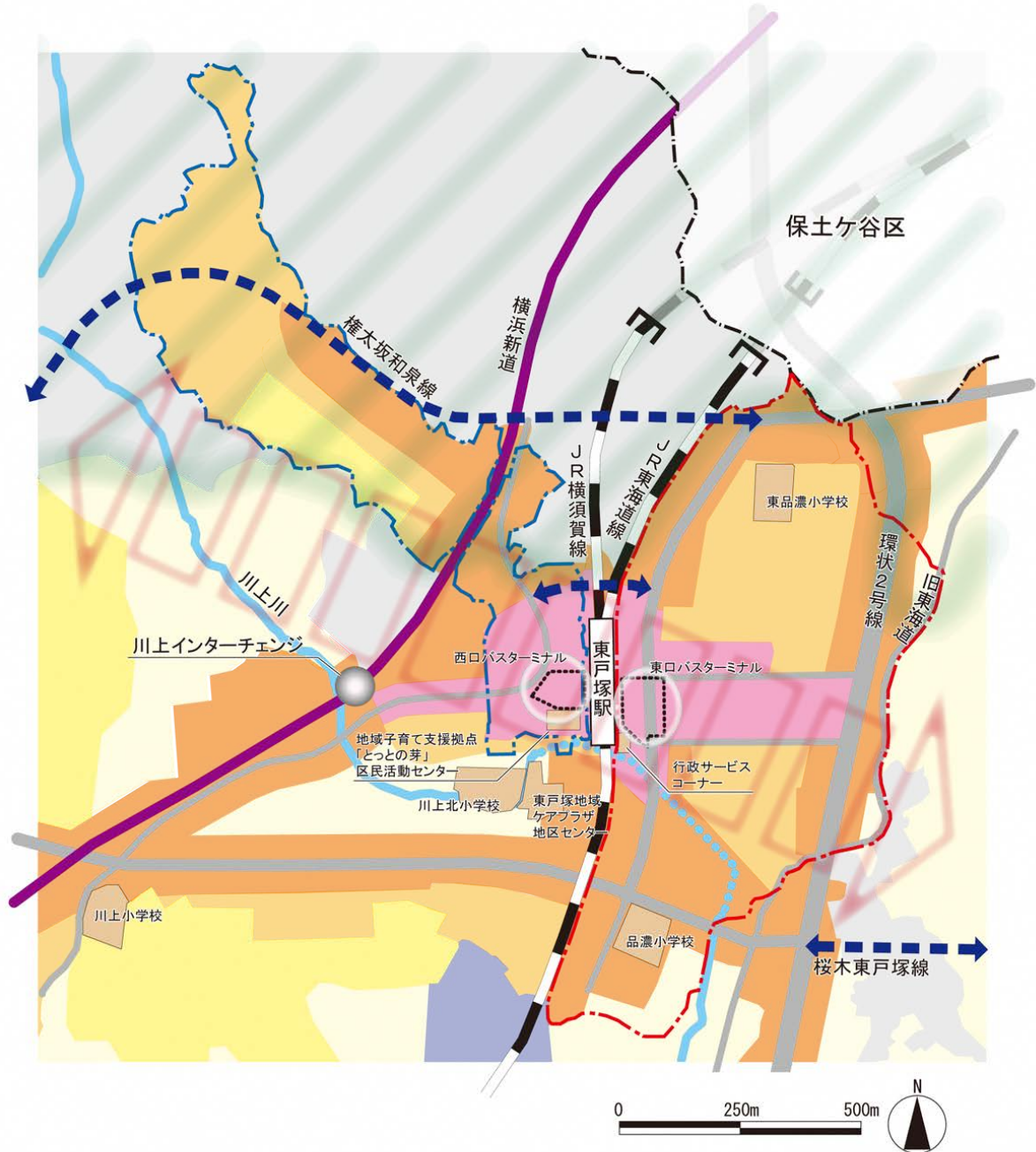
(3) 快適な都市空間の充実

- ・オープンスペースを十分に確保した都市型住居の整備を推進します。
- ・日常生活を支える施設等、地域の実情に合わせた施設などの導入を推進します。
- ・川上川を中心とした水と緑のネットワークづくりを検討します。
- ・周辺に広がる樹林地など、緑の拠点を保全していきます。

(4) 土地利用の誘導

- ・地区計画及び街づくり協議地区に定められた区域においては、快適な都市空間の形成に向け、ルールに沿ったまちづくりを進めていきます。

東戸塚駅周辺まちづくり方針図



道路	行政区 (区界)	低層住宅地区 (1)
高速道路	地区計画	低層住宅地区 (2)
鉄道	街づくり協議地区	中高層住宅地区
アクセス動線強化	駅前広場	業務・商業地区
鉄道計画路線 (横浜環状鉄道)	バスターミナル	沿道地区
インターチェンジ	緑の10大拠点	工業地区
川上川		市街化調整区域
川上川 (暗渠)		

2. 戸塚の資源を生かしたまちづくり

(1) 柏尾川

戸塚のシンボル桜並木を生かした景観形成軸づくり

<現状と課題>

- 桜並木が連なる柏尾川の風景は、自然環境や景観のシンボルとして親しまれています。
- 水辺とふれあうための水辺拠点やプロムナードは、憩いの場として活用されています。
- プロムナードは、駅への安全な歩行者・自転車通路などの役割を持っていますが、連続していない部分があり、課題となっています。
- 柏尾川に生息・生育している多様な生き物や希少なミズキンバイなどを、今後も守っていく必要があります。
- 地域住民などによる美化活動や様々なイベントが行われています。
- 柏尾川沿いは健康づくりの場としてウォーキングやジョギングに利用されています。

<目標像>

- ・ 未来に向けた、桜並木の維持・更新
- ・ 良好な水環境づくり
- ・ 水・緑のある親水空間づくり
- ・ 連続した魅力あるプロムナード
- ・ 柏尾川沿いの景観づくり

<主な取組>

(1) 桜並木の維持と更新

- ・ 活動団体や事業者の協力を得て、樹齢にあわせた適切な維持管理を行い、桜並木が永続するサイクルをつくります。老朽化がみられる桜並木については、植替え等を検討します。
- ・ 桜の連続性を確保するため、事業者等の協力を得て、柏尾川沿いの工場用地等での植栽を推進します。

(2) 水環境づくり

- ・ 生物の生育・生息環境を守るための環境づくりや生き物の生息状況を把握する調査などを進めます。

(3) 水辺空間づくりとプロムナード整備

- ・ プロムナードがない区域では、高水敷の活用等によりネットワーク化を検討します。
- ・ オープンスペース等を生かし、親水性の向上に向けた環境整備を検討します。
- ・ プロムナードの補修や高水敷に降りる階段等の配置を検討し、親水性、プロムナードの快適性を向上させる整備を進めます。

(4) 柏尾川を軸とした景観形成

- ・ 水辺からみた都市施設や緑地などのスカイラインを意識し、魅力ある景観軸の形成を目指します。
- ・ 川沿いでの建て替えや土地利用転換等の際に、水辺空間と一体的な広がりをもつ公開空地の整備や、プロムナードにつながるルートを確保するなど、柏尾川と一体になった空間づくりを推進します。

(5) 更なる魅力づくり

- ・ 川と桜の景観を維持していくため、区民などと協働し、清掃や桜の保全等の維持管理を行います。
- ・ 区民、事業者、行政が連携し交流イベントなどを実施し、区民が川に触れ合う機会やにぎわい・交流の場をつくり、柏尾川の魅力向上に努めます。

柏尾川軸づくり方針図

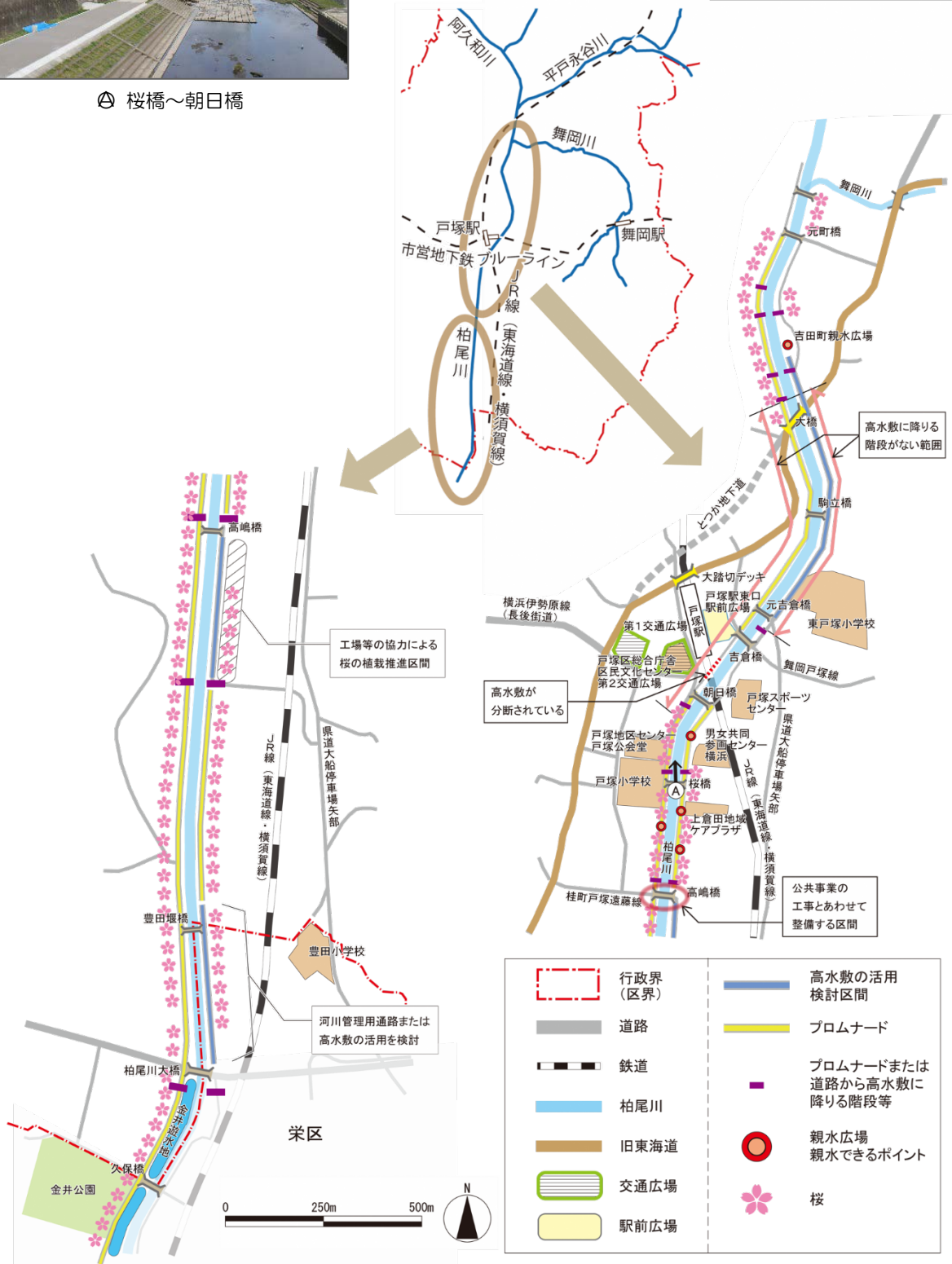


桜橋～朝日橋

ミズキンバイ（水金梅）



アカバナ科チヨウシタデ属
水辺に生育する多年生草本
絶滅危惧Ⅱ類に分類される



	行政界 (区界)		高水敷の活用検討区間
	道路		プロムナード
	鉄道		プロムナードまたは道路から高水敷に降りる階段等
	柏尾川		親水広場 親水できるポイント
	旧東海道		桜
	交通広場		
	駅前広場		

<現状と課題>

- 戸塚区内を南北方向に旧東海道が通り、魅力ある軸線を形成しています。
- 江戸時代の戸塚宿は、朝江戸をたった旅人の最初の宿泊地として最適な場所であり、鎌倉への遊山の道、大山参詣の道の分岐の宿として大変なにぎわいを見せていましたが、現在においても旧東海道戸塚宿周辺は、行政、経済、交通の中心となっています。
- 旧東海道の周辺には史跡や寺社など歴史資源が点在していますが、管理の問題などから維持することが難しくなっている資源があります。
- 市民団体や企業による史跡探訪や歴史講演会などが開催されており、区外市外から歴史に関心のある方が訪れていますが、幅広い世代に伝えていく必要があります。
- 旧東海道の各宿場で様々な取組を行っていますが、より連携していくことが求められています。
- 健康増進や余暇の過ごし方として旧街道を利用し、ウォーキングを楽しむ人が増えています。

<目標像>

- ・旧東海道の面影を残した景観づくり
- ・歴史資源が後世に引き継がれるまち
- ・旧東海道の魅力を発信するまち
- ・地域の歴史を生かし、育むまち

<主な取組>

(1) 旧東海道の景観形成

- ・沿道にある歴史、自然系の資源を大切にしつつ、魅力的な街並みを形成する取組を検討します。
- ・地域まちづくり推進条例の制度などを活用し、地域や事業者の協力を得ながら、色彩の統一など沿道の街並みづくりを進めていきます。

(2) 歴史資源の保全

- ・旧東海道につながる鎌倉道や大山道などの古道、周辺の歴史資源を、旧東海道とともに大切に継承していきます。
- ・民有地にある史跡等に関しては、保全活動を支援していきます。

(3) 沿道の整備

- ・旧東海道であることがわかるような案内サインの設置や、散策マップの充実などを図り、訪れる人が楽しめる環境を整備します。

(4) 更なる魅力づくり

- ・旧東海道の魅力を発信する活動は、地域の方々を中心に着実に広がりを見せています。今後も、区民、事業者、行政が協働し、様々な取組を行っていきます。
- ・旧東海道で繋がっている保土ヶ谷区、西区、神奈川区、鶴見区や藤沢市等と連携して、魅力アップに向けた取組を進めていきます。
- ・旧東海道を訪れる来訪者への情報発信の場の充実などについて検討します。

旧東海道軸と歴史資源図



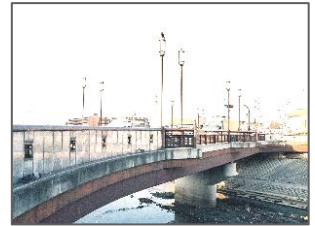
① 品濃一里塚



② 大山前不動



③ 江戸方見付跡



④ 大橋



⑤ 清源院



⑥ さわべ 澤邊本陣跡



⑦ 八坂神社



⑧ 富塚八幡宮



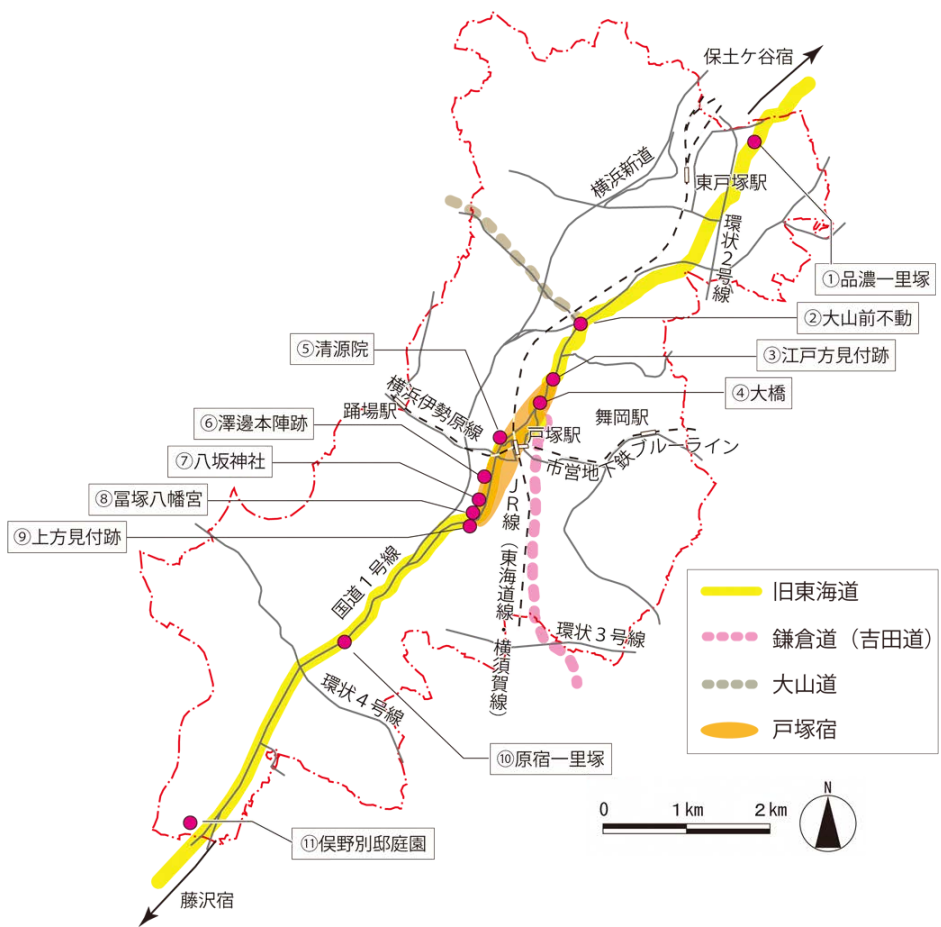
⑨ 上方見付跡



⑩ 原宿一里塚



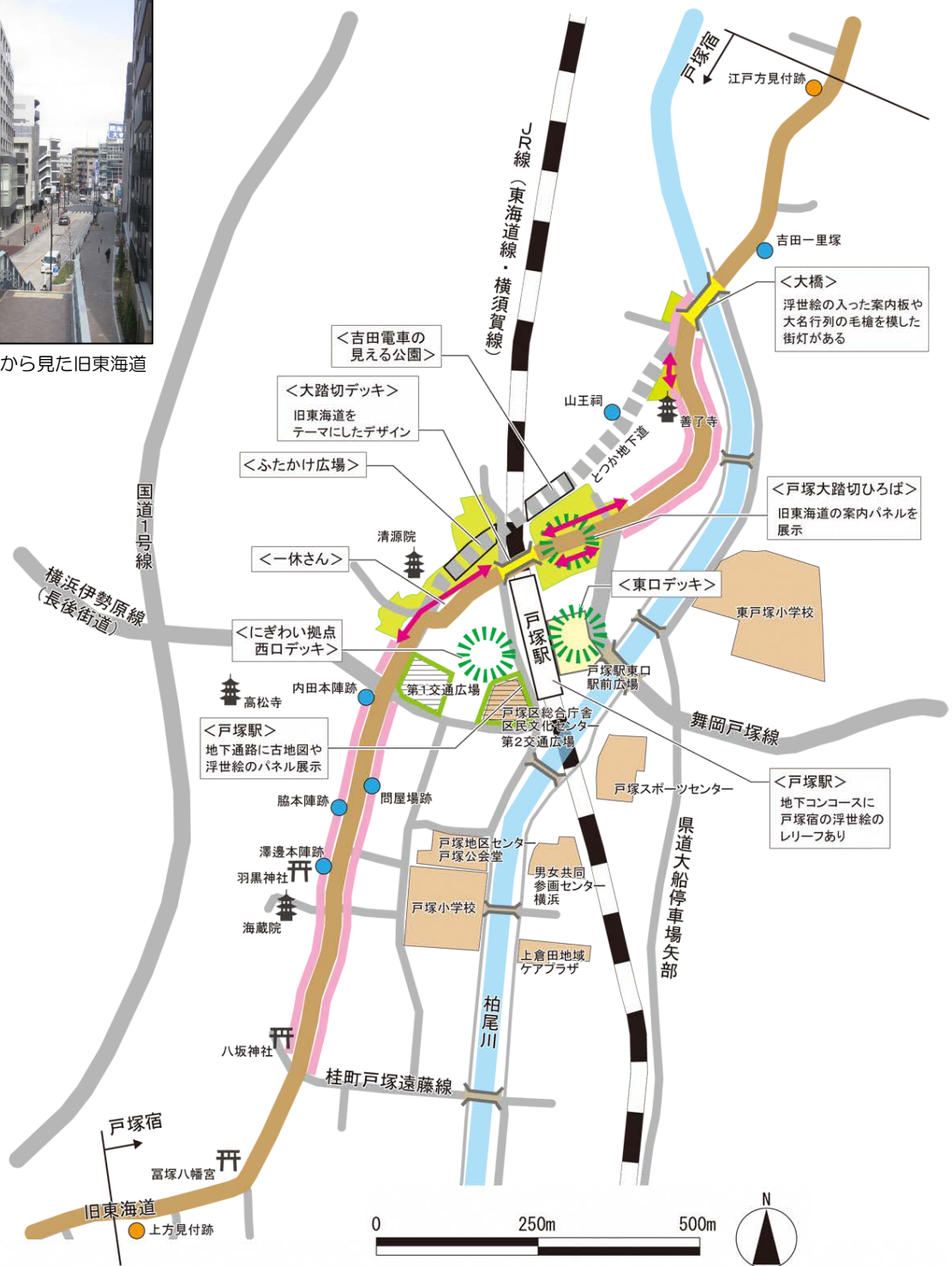
⑪ 俣野別邸庭園



戸塚宿まちづくり方針図



大踏切デッキから見た旧東海道



	道路		東海道の街並みを形成する地区		寺
	鉄道		東海道戸塚宿まちづくりルール		神社
	旧東海道		にぎわい拠点等		地域資源
	交通広場		まちづくりルールによるまち並み形成地区		史跡(見付)
	駅前広場				

【コラム】 柏尾川での活動

「戸塚桜まつり」昭和 32 年～

柏尾川で4月に毎年開催しており、平成 28 年は 60 回目の実施となりました。「戸塚区民囃子」の歌にのって、戸塚駅から旭町通り、柏尾川堤、そして柏尾川河川敷へと巡る「花見踊りパレード」のほか、柏尾川河川敷を会場に太鼓演奏などの地域芸能が行われます。



戸塚桜まつり

「柏尾川魅力づくりフォーラム」平成 19 年～

柏尾川流域で活動しているボランティアグループや企業、学校等が連携し立ち上げた団体です。多くの市民の皆様が柏尾川に親しみ・魅力づくり活動に参加する環境を整えることを目的に活動しています。

桜橋への鯉のぼり設置や清掃・柏尾川を楽しむイベントなどを開催しています。



近隣の小学生の手作りによる鯉のぼりを設置

「戸塚桜セーバー」平成 20 年～

柏尾川沿いの桜の保全・維持管理のボランティアをしている団体です。桜台帳の作成、樹勢回復、花壇づくり、講座の開催などの活動を行っています。

【コラム】 旧東海道の魅力を伝える取組

旧東海道の散策マップ

戸塚区役所では、区内の旧東海道を紹介する散策マップを平成 21 年に作成し、時点更新をしながら発行を続けています。区内の旧東海道全ルート을載せており、見どころを写真やイラストで紹介しています。区局連携で発行している市内の旧東海道マップ「横浜旧東海道みち散歩」と合わせて、区民の皆様や戸塚を訪れる人に活用されています。



「旧東海道戸塚宿の歴史を歩く散策マップ」

とつか宿場まつり

歴史に関する市民活動団体をはじめ様々な分野で活躍する団体、大学、企業などが主催となり、平成 27 年から「とつか宿場まつり」が開催されています。

戸塚の今昔のパネル展、宿場落語、東海道浮世絵「こめや（茶屋）」の再現等の催しを行い、江戸時代の戸塚宿から現在の戸塚の街まで、戸塚の魅力を伝えるとともに、戸塚駅周辺を中心としたにぎわいの創出につながりました。



とつか宿場まつり

各宿場に関わる市民団体が連携したジオラマづくり

横のつながりを強化し旧東海道域を盛り上げるため、各宿場町に関わる活動をしている市民団体等が、「武相宿場連携まつり実行委員会」を立ち上げました。平成 28 年には、旧東海道神奈川宿から藤沢宿までの各宿場町に関わる活動をする市民団体などにより、各宿場町の立体地図（ジオラマ）の製作を行いました。



戸塚宿のジオラマ